# 腎移植を考える：民間人の立場から
# 中部５県（愛知・静岡・岐阜・長野・福井）に於る
# ライオンズクラブの腎提供登録推進運動（献腎運動）について

井沢一義

**忠孝ちゃんの腎臓は生きている。**

**父母、苦渋の決断**

脳室内出血で亡くなった豊橋市内の５才の男児の腎臓が、昭和59年９月10日午後、名古屋市と豊明市内の病院に入院中の、腎不全患者２人に無事移植された。

腎臓を提供したのは、豊橋市内に住む、吉川隆三さん(35)（写真１）の長男忠孝ちゃん(5)（写真２）で４人姉弟の３番目として生まれた。

皆に好かれる明るい性格で、「ター君」と呼ばれ人気者であった。それが突然病魔に倒れたのは、９月３日の夜中の事であった。夜中の12時すぎ、夜泣きをしたので、「どうしたの？」とたずねると、「こわい夢をみた」という。「お父さんもお母さんもいるから寝なさい」と言うと、「お母さんがいい」と言って母親にしがみついた。これが忠孝ちゃんの最後の言葉となった。

「子供を何らかの形で残したかった」と語る吉川隆三さん

写真１

元気なころの吉川忠孝ちゃん

写真2

忠孝ちゃんは昏睡状態のまま豊橋市民病院に入院し、10日午前10時24分亡くなってしまった。

父の隆三さんは、昏睡状態にある忠孝ちゃんを見つめながら、「何とか忠孝を残してやりたい、ひょっとしたら息子の腎臓は役立てられるのではないか」と考えた。隆三さんの奥さん(30)も「あの子がどこかで生きてくれるなら……。お父さんと一緒の考えです。」と同意した。

隆三さん自身も１月、自らの献腎登録を、豊橋北ライオンズクラブを通じてすませていたのである。８日未明の決断だった。

早速豊橋市民病院の西村豊小児科部長に相談、西村部長を通じて名古屋の病院と連絡をとった所、忠孝ちゃんの腎臓が適合する患者のいることが分り、腎臓摘出が決った。

腎臓は早速名古屋市昭和区名古屋第二赤十字病院と、豊明市の藤田学園名古屋保健衛生大学病院に運ばれ、同日夜までに慢性腎不全に悩む成人の男性と女性に移植された。

手術の成功を聞いて父親の隆三さんは、「息子は生きてくれているんです。決して間違った選択だったとは思いません。息子も喜んでくれていると思います。」と語った。

ライオンズクラブ関係者は、「死後の腎臓提供は、日本のような佛教国では抵抗もあったと思うが、それを乗り越えてくれたことに敬服している。心から忠孝ちゃんの御冥福をお祈りします。」と感激をこめて語っていた。

以上は、毎日新聞、東愛知新聞、東海日々新聞の記事による。

豊橋ライオンズクラブ 才１副会長

**献腎で２人目、東三河**
**移植後の経過順調**

愛知県渥美郡田原町豊島字釜鋳碗89の１、商店主伊藤昭男さん(49)は、昭和59年12月６日亡くなった。伊藤さんは腎臓の摘出手術を行い、２人の腎不全患者に移植されたが、経過はきわめて順調である。

伊藤さんは豊橋ちぎりライオンズクラブを通じて、献腎登録をすませておられた。

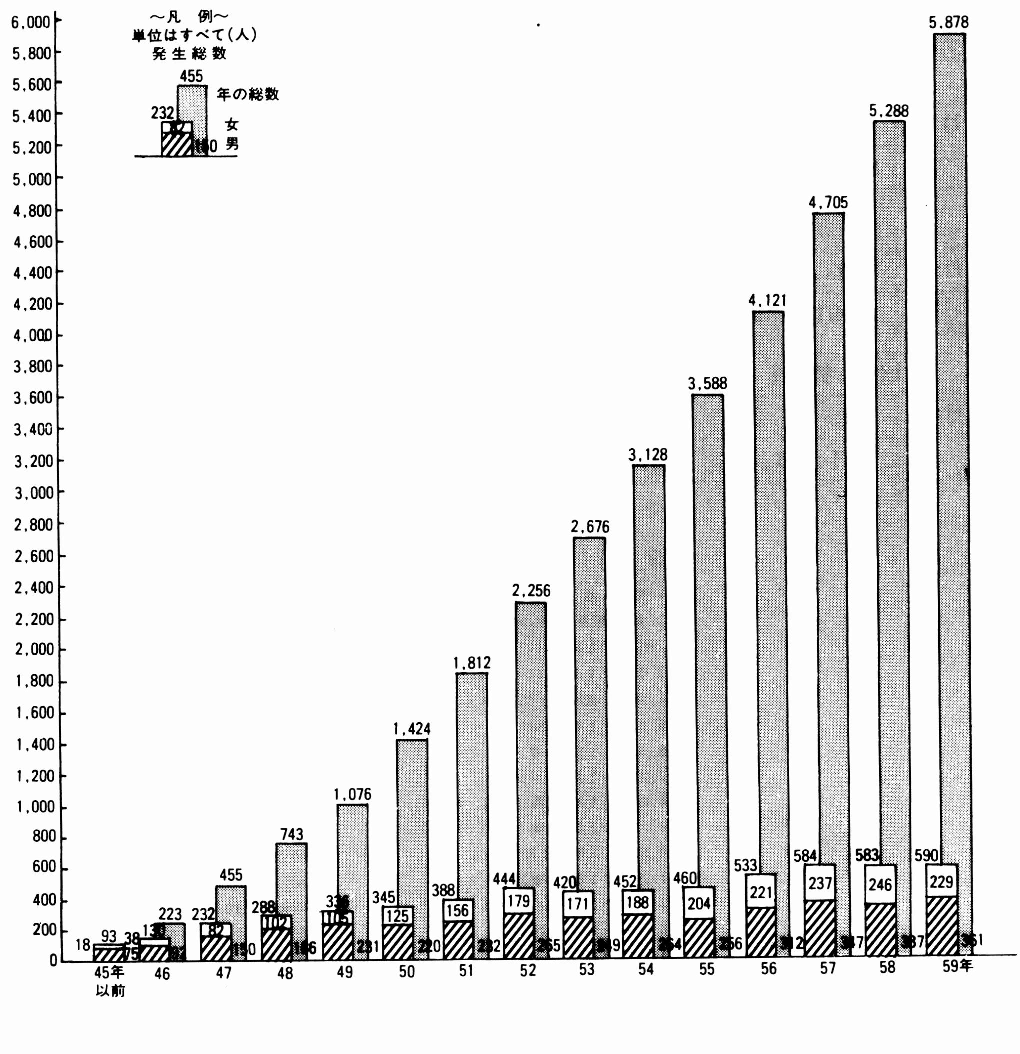
「東愛知新聞による」

**説得！**
**涙の遺族に「腎提供を……」**

豊橋市内で交通事故にあった男性、手当をした市内の病院からの連絡で、名古屋第二赤十字病院脳神経外科部長の浅井堯彦医師が出向き、診察の結果脳死と判断した。

家族と親類の人達約20人の前で、脳波のデーターを示しながら脳死になった経過を説明した。更に６時間後、その状態が全く変化していないことを説明した所、親族は納得し、「出来れば

図2　血液透析患者年次別発生数



## 表2 腎臓提供登録者月計

（昭61年２月） 社団法人 腎臓移植普及会

本月中 1,668人 累計 78,359人

I ）|都府県

| 都県名 | 群馬 | 栃木 | 茨城 | 埼玉 | 東京 | 千葉 | 神奈川 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 8 | 8 | 14 | 78 | 122 | 49 | 133 | 412 |
| 累計 | 1,041 | 650 | 1,671 | 6,234 | 8,978 | 4,038 | 4,178 | 26,790 |

| 県名 | 青森 | 岩手 | 秋田 | 山形 | 宮城 | 福島 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 1 | 14 | 3 | 1 | 53 | 6 | 78 |
| 累計 | 1,166 | 632 | 589 | 237 | 3,143 | 974 | 6,741 |

| 県名 | 静岡 | 愛知 | 岐阜 | 三重 | 富山 | 石川 | 福井 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 8 | 259 | 19 | 7 | 25 | 80 | 56 | 454 |
| 累計 | 798 | 18,660 | 3,303 | 1,301 | 830 | 1,883 | 971 | 27,746 |

| 県名 | 長野 |
|---|---|
| 本月中 | 536 |
| 累計 | 8,933 |

| 県名 | 鳥取 | 岡山 | 広島 | 山口 | 島根 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 7 | 22 | 21 | 50 | 0 | 100 |
| 累計 | 200 | 649 | 1,110 | 910 | 31 | 2,900 |

| 県名 | 香川 | 愛媛 | 小計 |
|---|---|---|---|
| 本月中 | 21 | 2 | 23 |
| 累計 | 1,091 | 97 | 1,188 |

| 県名 | 佐賀 | 長崎 | 福岡 | 熊本 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 2 | 20 | 23 | 20 | 65 |
| 累計 | 441 | 1,368 | 1,674 | 578 | 4,061 |

| 全地域合計 |
|---|
| 1,668 |
| 78,359 |

（備考）

| | |
|---|---|
| 1.関東地区 | 昭和52年 6月より実施 |
| 2.東北、東海・北陸の1部（愛知、石川、福井）、近畿 中国の１部（山口・島根を除く） | 昭和52年10月より実施 |
| 3.中国の１部（山口・島根） | 昭和52年12月より実施 |
| 4.東海・北陸の１部（岐阜・三重） | 昭和53年 4月より実施 |
| 5.九州の１部（長崎） | 昭和53年12月より実施 |
| 6.九州の１部（佐賀） | 昭和54年 4月より実施 |
| 7.四国の１部（香川） | 昭和55年 2月より実施 |
| 8.近畿の１部（大阪・奈良・和歌山） | 昭和55年11月大阪腎臓バンクへ移管 |
| 9.九州の１部（福岡） | 昭和56年12月より実施 |
| 10.東海・北陸の１部（静岡） | 昭和57年 1月より実施 |
| 11.近畿の１部（兵庫） | 昭和57年 9月兵庫県腎臓移植推進協会 |
| 12.近畿の１部（滋賀・京都） | 昭和57年10月京都腎臓バンクへ移管 |
| 13.四国の１部（愛媛） | 昭和58年 4月より実施 |
| 14.九州の１部（熊本） | 昭和58年 4月より実施 |
| 15.信越の１部（長野） | 昭和59年 7月より実施 |
| 16.東海・北陸の１部（富山） | 昭和59年 9月より実施 |

II〕男　女

| 性　別 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 本月中 | 884 | 784 | 1,668 |
| 累　計 | 43,500 | 34,859 | 78,359 |

III〕登録時年齢

| 年　齢 | 10　代 | 20　代 | 30　代 | 40　代 | 50　代 | 60代以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 117 | 294 | 374 | 421 | 193 | 269 | 1,668 |
| 累　計 | 2,598 | 16,298 | 19,099 | 18,649 | 12,673 | 9,042 | 78,359 |

IV〕血　液　型

| 血液型 | A　型 | B　型 | O　型 | AB型 | 不　明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本月中 | 511 | 318 | 381 | 145 | 313 | 1,668 |
| 累　計 | 25,625 | 15,319 | 20,648 | 7,152 | 9,615 | 78,359 |

腎臓を提供してほしい。」との要請に応じてくれた。

現在腎不全による透析患者は全国に、5万数千人、その数は年々ふえ、（表1）又移植希望者もふえつづけている。しかし腎バンク制度が十分に普及せず、死後の腎臓提供登録者の絶対数（表2）が極めて少ない今、腎不全に悩むこれらの患者の要望はとても満たされそうにない。

我国では最近に至り1年間にようやく数百例の腎移植が行なわれるようになったが、その内死後の腎提供者によるものは約25％前後であり、腎移植の75％は親や夫婦、その他の縁者からの生体腎移植に頼っているのが実情である。

今後の急務は腎バンクの拡大強化と、死後の腎臓提供者の飛躍的な増加を期するにある。実際に死後の腎臓提供者が出た場合、腎臓の摘出、保存、輸送、移植、献腎者受腎者の組織適合検査及び受腎者の選定等は、涙ぐましい医療関係者の奉仕的活動によって支えられているのが現状である。

又献腎者や腎摘出に際しての関係病院への精神的経済的な裏付けは全く制度化されておらず、腎移植関係者の大きな悩みの種となっているのが実情である。

**頼みの綱**

**「夫婦間移植」、「US腎」「渡米手術」**

**日本では75％が生体腎**

我が国で過去20年間に行なわれた腎移植、3500例の内、75％までは生体腎移植なのである。親子、兄弟、おじ、おば……。そして夫婦間の移植。

東北地方のある県に住む主婦S子さん(38)は、58年7月、腎不全に苦しむ夫(42)に、自らの腎臓を提供した。「あの時、迷っている余裕なんて、ありませんでした」と振り返るS子さん。愛する夫のために——。

建築業を営む夫が慢性腎不全を悪化させて人工透析に入ったのは56年秋だった。それ以来、夫は仕事も辞め、サウナ風呂に通っては時間をつぶすという生活が始まった。「死にたい」と弱気も吐くようになり、「一刻も早く移植を」というのが、夫婦共通の願いとなった。

死体腎移植ではいつ順番が回ってくるか分らない。それでは生体腎移植をと考えた。では、だれが——。組織適合性だけを考慮すれば、「血縁」間移植が望ましいのは、当然のことだ。夫の母親や、その兄弟のことを考えなかったと言えば、ウソになる。でも、どうして、そんなこ

とを言い出せるだろうか。

アメリカからの輸入腎（いわゆるＵＳ腎）についての説明会にも出てみた。アメリカの学会の好意で空輸されてくる死体腎。しかし輸送費など実費負担で7千ドル、約170万円かかる。と聞いてあきらめた。夫が失職した今、とても払えない。つまるところ、Ｓ子さん本人の腎臓しかなかった。仙台市内の病院で摘出、移植手術が行なわれた。

非血縁の夫婦間移植は「原則として認めない」とする病院も多い。Ｓ子さんのケースは、過去20年間に我が国で行なわれた、数少ない夫婦間移植の１例である。

**手術費用2000万円**

一方では、日本にいたのではいつまで待っても移植が受けられないからと、アメリカへ行って死体腎移植を受ける人も出始めている。厚生省年金局長、社会保険庁長官などを歴任し、現在年金制度研究開発基金理事長の伊部英男さん(63)もその１人。

伊部さんは年金局長当時の昭和42年に急性腎不全にかかった。やがて人工透析の生活に。健保制度の進展で、透析費用のうち個人負担は、ごくわずか。年間平均400万円（通院透析の場合）のほとんどは健保でまかなわれる。しかし「健康保険行政にかかわった者として、それはいかにも心苦しい」と伊部さん。

それがアメリカでの移植を決意させた。

57年春、アメリカ西海岸の大学病院で手術を受けた。３ヶ月間の入院費等、かかった費用は2000万円。

夫婦間移植といい、アメリカ人の好意にすがるUS腎といい、「現状では止むを得ない非常手段。本来好ましいことではない」と指摘する声は強い。アメリカの医学事情に詳しい東京医大の小崎正巳教授は、「日本の移植医として、目の前の患者さんを救ってやれないことが情けない。アメリカに対しても恥かしい」とし、伊部さんも「私も止むを得ずアメリカへ行ったが、安保タダノリより、健康保障タダノリの方がもっと悪い」と言う。

残念ながら、伊部さんは58年４月、肺炎から感染症を併発したため、再び透析に戻った。週２回の通院透析をうけ、それ以外の日は銀座の年金制度研究開発基金事務所へ。年金講演にも招かれ、時には自らの体験を語る。

**潜在腎移植希望者３万人……**

全国で現在、死体腎移植を待ちわびて登録している腎不全患者は、約4000人、潜在的希望者は、２万人とも、３万人とも言われている。どんなに死体腎移植をうけることを願っていても、その機会は余程幸運に恵まれない限り訪れてはこない。

**ＵＳ腎激減**

「何ごともなく仙台まで着いてくれるだろうか、ただそれだけを考え待っていました」仙台社会保険病院の高橋寿医師は、アメリカ人の死体腎がカリフォルニア州から始めて海を越えてやって来た当時をこうふり返る。

ＵＳ腎が日本にくるきっかけは、「腎臓移植医と患者のせっぱつまった声からだった」。

当時仙台地区で移植を希望する患者は 350人これに対し、実際に提供される死体腎は年間４個から５個しかなかった。

日本移植学会の調べでは、81年に31個、82年には51個、83年には24個の死体腎がアメリカから日本に送られてきた。だが84年には、たったの11個、１個あたりの費用は、7,000ドルから、9,300ドルにはね上った。

「１ばん大きな理由は、拒絶反応を防ぐ免疫抑

制剤、サイクロスポリンAが登場し、腎臓の場合、組織がぴったり合わなくても移植出来るようになったからです」。という。

又アメリカで移植希望者が急増していることに加えて、死体腎の輸出に対する批判の声が出はじめているかららしい。「国内で足りないのに何故輸出するのか」、「費用をとることは、売買していると誤解をうけるのではないか」という声が、連邦議会等でおこっているからである。

「提供者の腎臓はすべて国内で」となりつつある。US腎の輸入はむづかしくなりつつあるのである。

**国境を越えた欧州**
**移植センター5つのブロック**

ヨーロッパの臓器移植センターは、スカンヂナビア、南欧、東欧、イギリス、それにユーロプラントの5つのブロックに分かれている。

ユーロプラントが対象としているのは、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、西ドイツ、オーストリア、の5ヶ国で、人口は約9,300万人。ブロック内には現在39もの検査施設があり、臓器移植のケースは最優先で処理される。

ドナーは交通事故による脳死のケースが6割を占めている、とのことで「事故そのものは悲劇だが、移植を待ちのぞむ患者にとっては新しい人生の可能性を意味する」とパーシン博士は熱っぽく語った。

**日本にはうらやましい数字**

移植を待つ患者は、圧倒的に腎不全患者が多い。ユーロプラントに登録している患者数は、1983年末で、4,334人、'84年10月の時点で5,000人に達したといわれる。

実際に移植を受けることが出来た患者は、83年の1年間で1,673人。「5人に2人しかうけられず、待ち日数は平均28.4ヶ月にも及んでいる」と関係者は嘆く。だがそれは、日本の患者からすればうらやましい数字だ。

我が国の場合、千葉県の佐倉病院に、腎移植センターがあり、全国8ブロック毎の主要病院におかれたサブセンターと、コンピューターでつながっている。ここに登録されている死体腎移植希望者は、約4000人だが、実際に移植を望んでいる患者は、2万人とも3万人ともいわれている。

ところが、登録者の間から移植手術を受けることが出来たのは、昭和58（1983）年3月に移植登録がスタートして以来、かぞえる程しかないのである。

東京医大八王子医療センターで腎移植を手がけている、小崎正巳教授は、この日欧の差について、（「向うでは臓器移植が有力な治療法として確立すると共に、臓器移植に理解が深まっている」ことをあげる。

「臓器移植には、社会的連帯意識が大切なのですよ」パーシン博士は再び熱をこめた。

**臓器移植をめぐる想念**

臓器移植は、一般的にはすでに確立された医療技術の一分野としての地位を占めている。しかし、他の医療技術と決定的に異なるところは、治療を受ける人でなく、ドナーの存在があってはじめて成立する技術という点である。逆にいうとドナーによる臓器提供がなければ、臓器移植は存在し得ない。特に移植を希望する患者が多い場合、ドナーの数が少ない程、一般的な医療として成り立ちにくい。

このドナーとレシピエントの関係が、単に需要と供給というバランス面だけでなく、異物という観念からみた組織適合性や、拒否反応といった免疫の問題、生体、死体いずれにせよ提供

される臓器をめぐってドナー、レシピエント双方間の心理的な葛藤、脳死など死の判定をめぐる医師たちの倫理、殺人、死体損壊といった法律面でのトラブルの可能性、多額に上る移植費用の負担など医療経済といった側面にまで影を落していることを見落とせない。

そして、今日我が国における臓器移植を論じる上で最も特徴的なのは、臓器移植を医療という面からアプローチするというよりもむしろ、日本人、あるいは西洋に対置する概念としての東洋という視点を据えて伝統的な死生観、文化、宗教、心情等を織り込みながら議論が行われていることであろう。つまり医学、医療の面からそのプラスマイナスを論じるというよりは、もっぱら日本人論、文化論、倫理観がその中心に据えられている感じが強い。

それだけに臓器移植に限っては、他の医療とは違って、〝即輸入〟という形態がとれないのである。そのためわが国の臓器移植が欧米先進国に比べて後れをとっているといった議論の良し悪しは別として、他の医療分野とは別の意味で、臓器移植について私達日本人がそれなりにじっくりと考えるチャンスを与えられているのも事実ではなかろうか。

以上は
「いのち最先端　脳死と臓器移植　読売新聞解説部　編」より抜粋。

**ライオンズクラブ　50万人登録への始動**
**「やれば出来る」。**

昭和58年７月１日、豊橋ライオンズクラブ所属福井敏規が、334－Ａ地区（愛知県）ガバナー（91クラブ　会員7,043名）に就任と同時に「命の奉仕こそ最大の奉仕」のスローガンをかかげ、死後の腎提供登録推進運動を奉仕活動のメーンアクトとして推進することを採決した。

当時この提案は、すんなりと受け入れられたわけではなかった。むしろ多くの異論や、反対をのりこえてきたことも否めない。

反対の一つは、腎移植そのものに対する、宗教的、倫理的又は東洋的哲学から発する嫌悪感であり、更に腎摘出に際しての迷信や、誤解から生ずる恐怖感、又脳死問題の未解決という社会的背景による拒否感情も弱かったのである。

しかし前述の様に、臓器移植は死後の臓器提供者が存在しなければ成立し得ないのであり、又どんな高邁な論争も机上の空論となってしまうのである。

国民が臓器移植について、又脳死に関してどのような合意や選択をするにせよ、この合意や選択が腎不全で悩み腎移植を待ちのぞんでいる多くの患者にとって、少しでも良い方向づけになるよう社会的環境づくりの最大要因として、一人でも多くの死後の腎提供登録者を集めることが目下の急務と信じられている。

ライオンズクラブはこのような観点から、先ず334－Ａ地区(愛知県)に於て献腎登録運動を展開し、更に334複合地区（中部５県、愛知、静岡、岐阜、長野、福井）にこの運動を拡めた上で、ライオンズクラブの奉仕活動による50万人の献腎登録者獲得目標をかかげて、全日本のライオンズクラブに呼びかけるべく周到な準備に入っている。

（表３）は昭和58年７月１日から、愛知県のライオンズクラブが献腎登録推進運動をはじめた前後の愛知県における、献腎登録者数の経緯

## 表３　腎臓提供者登録者数

（61年２月末現在）

| 年＼県別 | | 愛知県 | 岐阜県 | 三重県 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 昭和52年 | | — | — | — | — |
| | 6月～12月 | 105 | — | — | 105 |
| | 計 | 105 | — | — | 105 |
| 53年 | 1月～6月 | 71 | 17 | 12 | 100 |
| | 7月～12月 | 136 | 53 | 26 | 215 |
| | 計 | 207 | 70 | 38 | 315 |
| 54年 | 1月～6月 | 133 | 35 | 69 | 237 |
| | 7月～12月 | 217 | 20 | 26 | 263 |
| | 計 | 350 | 55 | 95 | 500 |
| 55年 | 1月～6月 | 450 | 30 | 193 | 673 |
| | 7月～12月 | 249 | 47 | 50 | 346 |
| | 計 | 699 | 77 | 243 | 1,019 |
| 56年 | 1月～6月 | 229 | 74 | 43 | 346 |
| | 7月～12月 | 398 | 136 | 46 | 580 |
| | 計 | 627 | 210 | 89 | 926 |
| 57年 | 1月～6月 | 335 | 57 | 97 | 489 |
| | 7月～12月 | 215 | 142 | 44 | 401 |
| | 計 | 550 | 199 | 141 | 890 |
| 58年 | 1月～6月 | 365 | 94 | 106 | 565 |
| | 7月～12月 | 1,907 | 137 | 95 | 2,139 |
| | 計 | 2,272 | 231 | 201 | 2,704 |
| 59年 | 1月～6月 | 7,357 | 179 | 50 | 7,586 |
| | 7月～12月 | 1,940 | 1,225 | 136 | 3,301 |
| | 計 | 9,297 | 1,404 | 186 | 10,887 |
| 60年 | 1月～6月 | 1,308 | 708 | 104 | 2,120 |
| | 7月～12月 | 2,603 | 312 | 189 | 3,104 |
| | 計 | 3,911 | 1,020 | 293 | 5,224 |
| 61年 | 1月～2月 | 642 | 37 | 15 | 694 |
| | | | | | |
| | 計 | 642 | 37 | 15 | 694 |
| 計 | | 18,660 | 3,303 | 1,301 | 23,264 |

（注）52年6月～53年6月までは東海腎臓バンク発足以前の141名が含まれています。（愛知県欄）

を示している。

昭和58年７月を境に献腎登録者数が激増している様子が分る。又実際の献腎者も冒頭の忠孝ちゃんを含めて、複合地区では（表４）の様にすでに７名の献腎者を生んでいる。

ご冥福を祈りながら皆様にお伝えしたいと思います。

尚最後に、ライオンズクラブでは、例会や医学講演会や各種の催しものを開くに際し、又は街頭等多くの人の集まる場所や機会を捉えては、献腎登録を行っている。このような運動を見聞された際には一般市民の方々の深いご理解とご協力をお願いする次第です。

**表４　334複合地区献腎運動現況概覧**

1985年12月31日

| 地区 | 献腎登録のみ実施 | 拠金のみ実施 | 双方とも実施 | 12月末現在拠金額 | 献腎登録者 | | | | | | | | | 献腎者総数 | | | 12月末現在 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1985年６月30日現在① | | | ７月１日～12月末日② | | | ①+② | | | | | | クラブ数 | 会員数 |
| | | | | | 総数 | L関係 | 一般 | 総数 | L関係 | 一般 | 総数 | L関係 | 一般 | 総数 | ① | ② | | |
| A | 51 | 0 | 17 | 1,881,050<br>(含献眼拠金) | 12,521 | 3,243 | 9,278 | 2,927 | 428 | 2,499 | 15,448 | 3,671 | 11,777 | 3 | 0 | 3 | 94 | 7,460 |
| B | 25 | 0 | 28 | 434,618<br>(含献眼拠金) | 1,404 | 1,096 | 308 | 286 | 185 | 101 | 1,690 | 1,281 | 409 | 1 | 0 | 1 | 73 | 4,770 |
| C | 14 | 1 | 9 | 635,300 | 684 | 276 | 408 | 369 | 99 | 270 | 1,053 | 375 | 678 | 3 | 2 | 1 | 64 | 4,270 |
| D | 62 | 0 | 20 | | 1,795 | 884 | 911 | 1,632 | 606 | 1,026 | 3,427 | 1,490 | 1,937 | 0 | 0 | 0 | 87 | 5,632 |
| E | 29 | 0 | 20 | 2,018,000 | 5,184 | 2,398 | 2,786 | 2,926 | 365 | 2,561 | 8,110 | 2,763 | 5,347 | 0 | 0 | 0 | 52 | 3,170 |
| ＭＤ | 181 | 1 | 94 | | 21,588 | 7,897 | 13,691 | 8,140 | 1,683 | 6,457 | 29,728 | 9,580 | 20,148 | 7 | 2 | 5 | 370 | 25,302 |

※Ｄ地区…ＥＢＫ費として各クラブよりキャビネットへ336,000円および５Ｒ、６Ｒがアイバンク設立のための費用として8,982,000円の拠金あり。